

会計基準をめぐる最近の国際的動向について

- IASB-FASBによるコンバージェンス作業の状況
- IASBの今後の戦略的方向性・作業計画(市中協議)
- EEG(新興経済グループ)の設立

IASB-FASBによるコンバージェンス作業の状況

○2011年4月21日、国際会計基準審議会(IASB)と米国財務会計基準審議会(FASB)は、コンバージェンス・プロジェクトの数ヶ月延期を公表。

〔『金融商品会計;減損・ヘッジ』、『収益認識』、『リース』について、完了時期を2011年6月から2011年中に延期〕

○2011年6月30日にIASBが公表した作業計画では、重要なMOUプロジェクトのうち、『金融商品会計;減損・ヘッジ』、『収益認識』、『リース』について、完了の更なる延期を公表。

〔『金融商品会計;減損』については2012年以降、『金融商品会計;ヘッジ』については2011年以降、『収益認識』、『リース』については2012年前半に延期〕

○2011年7月26日にIASBが公表した作業計画では、重要なMOUプロジェクトのうち、『収益認識』、『リース』について、完了の更なる延期を公表。

〔『収益認識』、『リース』について、完了時期を2012年中に延期〕

IASBの今後の戦略的方向性・作業計画(市中協議)

国際会計基準審議会 (IASB) は、2011年7月26日、アジェンダ・コンサルテーションを公表し、パブリックコメントを開始 (コメント期限：11月30日)

○今後3年間の戦略的方向性及び全体的な将来の作業計画のバランスについて、広く関係者の意見を取り入れることが目的。

○主な質問は以下のとおり。

- ・IASBの戦略的優先事項はどうあるべきか。また、今後3年間で優先事項のバランスをどのように調整するか。
- ・IASBの考える主要区分や戦略的分野についてどう考えるか。

主要区分;財務報告の開発

- 概念フレームワークの見直しの完了、表示・開示のフレームワークの開発
- 調査研究への投資、財務報告に関する戦略的論点への対処
- 基準の新規開発もしくは修正によるIFRSにおける欠陥の補充

主要区分;IFRSの維持管理

- 新規IFRS及び主要な修正に関する適用後レビューの実施を通じたよりよい理解
- IFRS適用の一貫性及び品質の改善

- ・個々の基準開発プロジェクトにつき、どのプロジェクトを優先すべきか。
※リサイクリングについて、その他包括利益(OCI)等のプロジェクトで検討する可能性に言及

EEG(新興経済グループ)の設立

EEG(Emerging Economic Group: 新興経済グループ) は、2011年7月に国際会計基準審議会(IASB)内に設立されたグループ。

- メンバーは、G20の新興経済国及びマレーシアから構成
- IFRSの策定過程における新興経済国の影響を強化し、新興経済国のIFRS導入を促すことを目的とする
- 議長: Wayne Upton氏(IASB国際担当ディレクター)
副議長: Yang Min氏(中国財務省 会計規制部局長)
- 中国に本部を置き、1年に2回定期会合を開催
- 2011年7月に北京で初回会合を開催
 - ・ブラジル、中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ロシア、南アフリカの代表者が出席。
 - ・IASBからは、フーガーホースト議長、中国・南アフリカ・インド出身の理事、Upton氏が参加。

2011年2月11日、IFRS財団は、アジア・オセアニア地域のサテライト・オフィスを東京へ設置することを公表。

公表の概要は以下のとおり。

- サテライト・オフィスの設置により、アジア・オセアニア地域におけるリエゾン活動を強化
- 東京オフィスの設置により、IFRS財団とアジア・オセアニア地域の関係者とが関係を持つ機会が増加
- IFRS財団は、直接現在継続中の協議を促進するとともに、IFRSを利用している、もしくは今後適用する予定の国々を支援するため、財団とIASBのリソースを東京に設置